

日本予防医学リスクマネジメント学会理事長退任に際して

国際予防医学リスクマネジメント連盟 (URMPM) 理事長・会長  
日本予防医学リスクマネジメント学会 (JSRMPM) 名誉理事長  
酒井 亮二

はじめに、本年3月に起きた東日本震災の被災者の方々に謹んでお悔やみ申し上げます。JSRMPMとURMPMはその機能をフルに活用し、国内外に広く迅速な情報発信を心がけております。世界では、数十万件の電子メール、ツイッター、フェイスブックにて関連情報を発信しています。

さて、日ごろからJSRMPM初代理事長として日本の皆様に接していただく機会を賜り、厚く感謝申し上げます。JSRMPMの第1回理事会は2002年3月17日に東京学士会館本館に設立時の理事の方々がお集まりになり開催されました。そこにあつて、安全と危機管理に立ち向かう日本医学の新しい夜明けとして、理事の方々の大変な熱意と強い決意の下で学会設立が決議されました。今翻ると、その理事の方々は、私を含めて2-3名が日本学会、JSRMPMに在籍するだけとなりました。

それから10年の年月を経て、JSRMPMは全国に多数の会員を有し、最近数年において開催された年次総会、地方会および各種シンポジウムで満席状態が続く事態を確認するに至り、このたび、JSRMPM理事長職をより若い方へお願いするに至りました。

世界学会、URMPMは私がスイスの大学職にあつた際に、社会経済グローバル化に伴う事故・災害の大規模化に対する医学の新しいグローバルな取り組みとして設立しました。ニューヨークでのテロ災害をはじめとして21世紀の最初の10年間の世界では、SARS、狂牛病、2009年新型インフルエンザ、高度機械化が進行する医療機関での深刻な医療事故という様々な危機管理問題が続発してきました。また、世界各地で続発する災害(インド洋地震・津波、パキスタン・中国・ハイチでの地震、米国でのカテリーナ台風など、災害の総死者数は100万人以上)。そして今日本では、巨大地震・巨大津波・原子力発電所事故という歴史的にまれに見る大災害の渦中にあります。それは日本経済と連動する世界諸国にも甚大な影を落とします。

かかる超国難にある日本には、より若い方々による熱意と強い力が不可欠です。そのため、日本学会の理事会に対して、新理事長の選出を急遽お願いしました。結果として、JSRMPMの副理事長として長い間その職責に当たられてこられた、東京大学医学部法医学教授吉田謙一先生が選出されました。

吉田先生は日本各地でのJSRMPMの学術集会で活躍され、医療安全に関する多数の国際会議を日本国内で開催されました。他方、URMPMの世界活動にあつても、この世界学会会員に入会され、カナダでのURMPM第2回アメリカ大陸学術総会への参加、英文機関誌Journal of Medical Safetyでのいくつかの原著論文投稿をなされ、国内外に広く活躍されています。

今後私くしはJSRMPM名誉理事長およびURMPM理事長・会長として、国内外の事故・災害に果敢に挑戦される日本の皆様に陰ながらお役に立てれば幸いです。

最後に、危機に際して必要な事は、迅速な対応、事実発信の透明性と一貫性、難攻不落な牙城を攻め落とす強く粘る力と知恵、そして人の輪・・・。それらは、人の力こそが危機を乗り越えることを意味しています。